



平成18年7月14日

関係各位

高千穂交易株式会社
代表取締役社長 戸田秀雄
(コード番号 2676 東証第1部)
問合せ先
取締役常務執行役員
経営システム本部長 赤堀寛人
電話 03-3355-1111

犯罪から生徒を守る、学校・通学路セキュリティシステムの第2次実証実験の開始について
～大阪府と共同推進、吹田市の公立中学校で開始～

当社と子会社(株)エスキューブは、大安協* (だいあんきょう) 及び大阪府等と協力して、2005年12月から、国内初の試みとして、吹田市立古江台中学校において、犯罪から生徒を守る「アクティブICタグ」を利用したセキュリティシステムの実証実験を実施しております。

今回、当社及び子会社(株)エスキューブを主要推進メンバーとして、実験範囲を校内から通学路に広げた第2次実証実験を開始しますので、下記のとおりお知らせいたします。

当実証実験は、防犯と生徒の安全・安心を目的として、自治体、学校(教職員、父兄、生徒)及び地域団体等が参画して、日常の学校活動の中で実施しております。第1次実証実験では、校内での通常時における生徒の登下校時間と校内での居場所を把握。登下校メールを保護者携帯電話に配信。生徒が校内で不審者に遭遇した場合、ICタグの防犯ボタンを押すと、職員室や外部の情報管理センターに警告。教職員が緊急に駆けつける。

ICタグを持たない人が校門を通過すると、防犯カメラで録画し、職員室に警告する。

などの実証実験が行われ、その結果(6月1日公表)を受けて、実験範囲を通学路に拡大するものです。

なお、実証実験の詳細に関しましては、添付「大安協」資料をご参照ください。

記

1. 第2次実証実験の概要(詳細は、添付「大安協報道資料」ご参照)

(1)実施期間:2006年7月18日から同年9月

(2)実験内容:生徒の通学路における、通常時の生徒の居場所把握や不審者と遭遇時における緊急情報の発信と緊急情報の自動受発信と対応など、通学路における防犯システムを確立していく。

2. 商品開発:現在、学校向け及び企業向けの商品・サービス開発を進めており、対象市場や販売チャネル、システム仕様及びサービス内容などは、商品化後にお知らせいたします。

3. 添付資料:大安協発表の報道資料を添付します。

*大安協(だいあんきょう):大阪府など産官学が参加する「大阪安全・安心まちづくり支援ICT活用協議会」の略称。

以上

大阪安全・安心まちづくり支援ICT活用協議会(略称：大安協)支援プロジェクト

**「IT(アクティブICTタグ)を活用した児童生徒の安心安全確保システム構築事業」
～18日より、吹田市立古江台中学校において“第2次実証実験”を開始～**

(財)関西情報・産業活性化センター(KIIS/会長 川上哲郎:関経連相談役)が事務局を務める「大阪安全・安心まちづくり支援ICT活用協議会(略称：大安協)」(会長代行 中野 潔:大阪市立大学大学院教授、平成16年12月設立、現在産官学51団体で構成)では、公共空間における児童生徒の安全の確保を目的としたシステム開発と実証実験を下記の通り実施します。

本事業は、平成17年度の全国都市再生モデル調査に採択された「IT(アクティブICTタグ)を活用した児童生徒の安心安全確保システム構築事業」(経済産業省近畿経済産業局より受託)の調査結果を受け、学校内対象であったシステムを、通学路に拡大して実施するものです。通学路における安心安全システムの実用性や効果について検証を行い、防犯に対するICTの有効性を検証し、地域一体となった安全・安心システムの確立を目指します。

1. 事業名称：IT(アクティブICTタグ)を活用した児童生徒の安心安全確保システム構築事業
2. 実施期間：平成18年7月18日～平成18年9月
3. 実証実験場所：吹田市立古江台中学校及び通学路(古江台中学校テニスコート脇と「健康の森」との間の道路から中国自動車道高架下)(大阪府吹田市)
4. 主な推進メンバー：高千穂交易(株)、NTTコミュニケーションズ(株)、(株)エスキューブ、大阪府、大阪市立大学大学院 中野 潔教授、(財)関西情報・産業活性化センター
5. 協力機関等：吹田市立古江台中学校、吹田市、吹田市教育委員会、吹田市立古江台中学校PTA (財)生活環境問題研究所「健康の森」、津雲台・古江台自治会・青少年対策委員会、防犯協議会等
6. 実証実験の内容：

校内設置のアクティブICTタグシステムを拡張し、通学路の安全対策を図ります。通学路にアンテナを設置、エリア内で防犯ブザーを内蔵した無線アクティブ型ICTタグを利用して危険情報を把握し、駆けつけボランティア、保護者、学校、警察など関係者の駆けつけ体制を構築します。

防犯ブザー付き無線アクティブ型ICTタグを利用した通学路における生徒の位置情報と緊急事態発生状況の把握。

情報管理センターによる緊急・危険情報の管理

 - ・ 通学路で緊急・危険事態が発生した場合、ICTタグの防犯ブザーを利用して、情報管理センターに通報
 - ・ 情報管理センターによる緊急・危険情報の集約・一元管理

緊急・事態発生時の関係者への連携体制や駆けつけ体制の構築

 - ・ 情報管理センターから保護者、学校、PTA、自治会など関係機関に連絡。
 - ・ 連絡をうけた保護者、学校、PTA、自治会など関係機関による駆けつけ。
7. 参加予定人数

平成18年4月～：希望者約230人

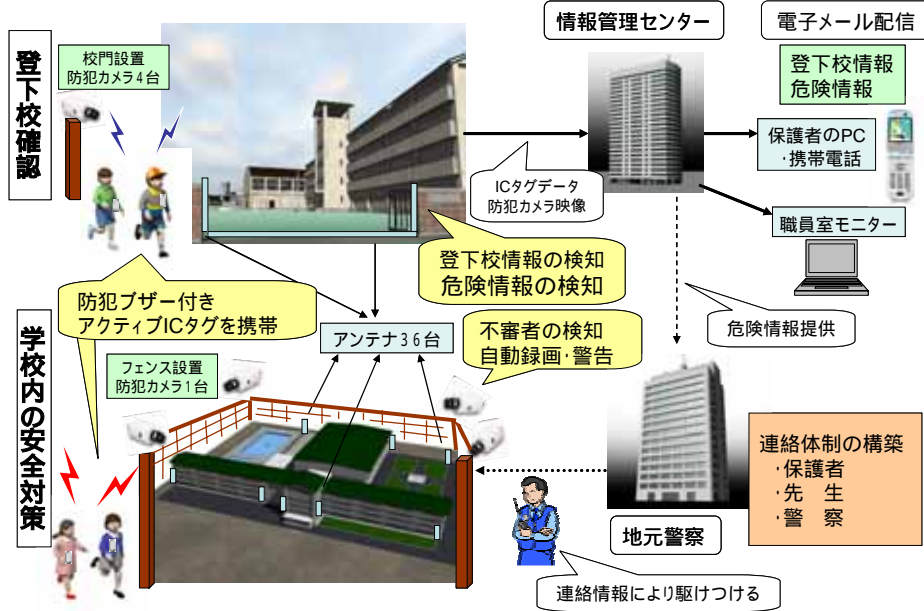
通学路実証実験実施～：希望者全員

【資料添付】実証実験のしくみ【システムの概要】
通学路アンテナ設置エリア

別紙資料1
別紙資料2

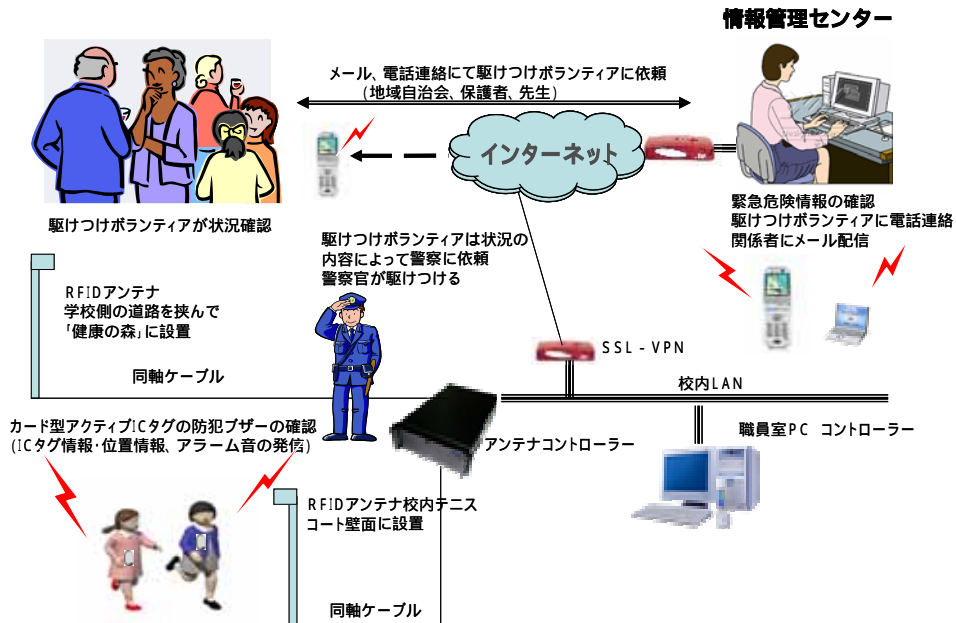
実証実験の仕組み【システムの概要】

(校 内)



(通学路)

通学路のアンテナ設置による緊急事態発生時の駆けつけ実証実験



通学路アンテナ設置エリア



□・・・通学路見守りエリア

